

児童の言語生態研究による イメージ研究の歴史・改訂版

資料作成

小林 照子

出版

ホッブ

1968

No. 1

子どもの空想は果てしないのか（日名子）
”絵ばなし”に見る五、六才児の視点（額賀）
一・二・三年における連想の発達（松原）
「連想」把握への試みと問題提起（飯住）
上級学年（四・五・六年）における連想の分類とその方法（飯住）
三教科書の差異ある一年生「にじ」が子どもたちにどう反応しているものか（椎名）
つなぎ話に見られた連想の特徴（丹野）

1号

子どもの連想と
仮想と

継続と裁断

No. 2

場と言語（岡田）
絵本と子どもの場のとり方（鈴木）
場面移動と時間との伴い具合——四年生の場合——（野村）
イメージの中の場の裁断と継続（相川）

2号

子どもは「場」を
どう捉えているか

世界設定

1969

No. 3

空想と現実との境（関山）
主として嘘の心情をめぐって（上原）

3号

国語の力とは何か

1971

No. 4

構成力の発達について（共同）
——場面連繋の可能性とその支障性——

4号

子どもにとって
書くということ

| 1982 | 1980 | 1978 | 1977 | 1975 | 1973 | 1972 |
|---|---|--|---|---|--|--|
| No.11 | No.10 | No.9 | No.8 | No.7 | No.6 | No.5 |
| <p>心意伝承としての国語（上原） けんかに見る子どもの言語生態調査（小林・堀江） 小学生のけんかに見る”ポーズ意識” についての一考察（飯住・石本）</p> <p>11号 子どものけんか</p> <p>1983 イメージ その全体像を考える （藤岡・NHKブックス） 要素的イメージから 全体的イメージへ 全体像 自己像 世界像</p> <p>1983 感情教育論 ”若”の思想―序にかえて 感情教育論 子どもの言語生態研究 （上原・学陽書房より出版）</p> | <p>9号 用具言語としての 言語学習のあり方</p> <p>10号 音声言語教育の 方法を探る</p> <p>1981 はなちがナンでえ （童心社より出版）</p> | <p>人間の構えのパターンとその発達と過程——ことわざの示唆性の獲得過程——（小泉・地村）</p> <p>8号 子どもの構えの 変革とことば</p> | <p>身ぶり・しぐさの意識に見る子どもの構えの発達（飯住） 笑いに見られる子どもの構えの発達（吉本・中川）</p> | <p>小学生の気の働きと思うことの学年発達（小泉・佐藤・山口・地村）</p> <p>7号 子どもの感情の 発達とことば</p> | <p>物言う意識の発達を知るための調査方法の一つとその報告（上原・飯住） 比喩という言語操作性（武村） 即興という言語操作性（市山）</p> <p>6号 ことばをあやつる 意識と方</p> | <p>「うそ」についての構造化（武村）</p> <p>5号 子どもにとって 「うそ」とは何か</p> |

1985

No.12

なまいきの生態を探る（共同）
英才児のなまいき

——論理性獲得に至る道筋を辿って——（葛西）
美の世界への誘い（安田他）
”ごだわり“からの脱出
——自己解放を目指して——

12号

子どものなまいき

1985

子ども文化

子どもの生活と先験的イメージ
子どものイメージの情動における仮説とその実証
（予見・祈祷・邂逅・没我・瞬起）
「穴」と留守番
聞とつぼ
走る
手形占いとおまじない
イメージの生理感
（子ども文化の文化人類学的研究）日本放送協会より出版

1988

No.13

子どもにとって泣くということ（武村）
子どもの感情生活における浄化作用について
——「夕日」作文にみる子どものイメージ運動——（小林）
子どものイメージ運動——
「あとかくしの雪」を通して——（小林）
子どもの「氣どり」に関する一考察（宮田）
——がまんの美意識——

13号

子どもの泣き

1987

心意伝承の研究
芸能編

その形と心の各論
——心意伝承の様式的事例とその感情構造——
犠牲論——身替り——
落人論——神々の零落——
心中論——ぬば玉の黒馬に乗りて——
道行論——前わたりの芸能——
”殺し”と”血”の心意伝承——ちあえの衰亡——
（上原・桜楓社より出版）

1990

No.14

”夢“ 作文と個性——その通性を求めて——（上原）
子どもの「夢」の世界構造（武村）

14号

あの子にこの子
子どもの個性への接近

「三題漸」の教材からとらえた子どものイメージの動き方（須崎）
人間関係のとり結び方についての相互観察と自覚（福田）
『子どもの意識のペースをさぐる——おうち——』（宮田・工藤）

1991

国語の授業はこうする

（学芸図書より出版）

「よみ」の世界を開く——日本人の根元的イメージ活動の触発として和歌（俳句）を読む——（阿部）

「イメージの停滞からの脱出・イメージの再出発
時・空間の拡大化とイメージーションの転換——（内田）」

1993

かいまみの世界

（上原・玉川大学での最終講義）

「イメージーションの発動性と整序性を知るための
研究授業——三つのことば合わせ——（藤本）」

毎日21世紀賞応募論文「子どもと夢」（上原）

夢は体感とともに在り——

1. 夢の先験性

2. 世界定め＝トランスフォーメーション

3. 夢と風景

4. 夢の働きとしての回帰性

「英才児という個性」（葛西）

・潜在意識世界に生きる英才児

・ひとりぼっちと自己意識

・人間関係意識

・世界定め

・英才児のトランスフォーメーションの能力

『時間・空間の継続と裁断にともなうイメージの持続

——「石うすの歌」を使って——（松原）』

『トランスフォーメーションの獲得・イメージーションをつなぐ

——「さよならの学校」を使って——（佐藤）』

世界観

——トランスフォーメーション——



1995

日本人の心をほどこ
かぶき十話

日本人の心の仕組みと整えをほどこ

歌舞伎は日本人の心の偏向

”やつし” という世界転換

魂は空中を散歩する

宇宙空間としての牧場

きものあわせ——衣裳を人格——

世界と人格との転換

笛の音に誘われて——靈魂の出現——

トランスフォーメーション

日本人の意識世界の構築法

犠牲者の系譜——冥界への案内人——

三輪の神伝承——神話の元型——

ワカ（和歌・若）をアゲル

天と地の呼応

宇宙空間の一大演出

（上原・オリジン社より出版）

かいまみの世界（上原）

イマジネーションの時間性・空間性

— 子どものイマジネーションの意識構造を考える — （中川）

おふくろの世界

— 「おうち」 「におい」 作文にみる時間と空間 — （宮田）

あの世からこの世へ

— 「人形」 作文に見る子どものイマジネーション — （小林）

トランスフォーメーションの獲得（葛西）

『気分と音声との即応の度合いを探る

— 面をつけて話す授業から — （山本）』

『子どものイマジネーションの連続性、偏向性を知る

— 「はまべのいす」を使って — （関）』

『子どものイマジネーションの発動性

— 時間・空間・人間の転換 — 「母さんの歌」を使って（亀山）』

『幼児にみるイマジネーションの発動性と連続性

— あの世とこの世の橋渡し — （酒井）』

『子どもの意識のベースを探る

— 6年生の「おうち」意識（生命体の連続意識） — （柴田）』

『イマジネーションの発動性・身近にある神秘的場所に注目し、ふるさとを語る

— 「善太と三平」を使って — （佐藤）』

15号

子供にとつての時間と空間
— 上原輝男先生追悼号 —

『仮想の逍遙』

水墨画の世界に遊ぶ——（小林）』

うんちは生きている——うんち作文に見る子どものイマジネーション——（小林）

時空の転換と子どもの神性——「ひぐれみち」という境界領域からの触発——（葛西）

子どもの語るあの世——「あの橋をわたって」（作文）の分析から——（中川）

——「あの橋をわたって」の授業風景から——（宮田）

トランスフォーメーションの獲得Ⅱ——英才児の世界定め（心見）——（葛西）

生命の指標（らいふ・いんできず）は、我が内にあり——「児童」後の子ども達への児言態の実践——（宮田）

『子どもの意識のベースを探る』

——ありのままの自分を包み込む世界を感じる（「さるの手ぶくろ」を使って）——（中川・亀山）』

『生命の発露としてのイマジネーション』

その体感を語る

雪になる胎児になる——

（小林・中川）』

『コミュニケーションの原点を探る』

言語以前の行動伝承「あかんべー」

を使って——（中川・山本）』

『「よみ」の世界を開く』

——二つの言葉の取り合わせによって

広がる世界を詠む——（葛西）』

『生得的感性を呼び覚ます』

——まどみちおの詩を使って——

（亀山）』

2006

曾我の雨・牛若の衣裳
——心意伝承の残像——

雨と瓜と馬と

一富士、二鷹、三なすび

白衣で候

牛若の衣裳

尼御前の骨拾い

舞、延年の時の若

心意伝承の残像を求めて

白骨の磯良

遊女と人形・稚児と馬

山と海との祇園会を観て

稚児研究の布石

（上原・暮しの手帖社編集協力）

2006

英才児その神性と野性

潜在意識世界を生きる子どもたち

イマジネーションと自己意識と世

界定めと

英才児のイメージ運動と創造性

トランスフォーメーションの獲得

（葛西私家版）

2007

心意伝承

——遊働世界に生きる——

（本荘・學燈社國文学2007年10月号より

2009年6月号本文連載）

16号

子供の神性と野性